

### I 人を育てる

- ・年齢が高いお母さんが育児をするうえでのフォローの必要性(伊藤委員)
- ・先生たちの気持ちにゆとりが持てるような取組みが必要(谷委員)
- ・男性も子育てを一人でやるのは大変、相談できない人もたくさんいる。(谷委員)
- ・学校で行っている挨拶運動などを地域へもっと発進すれば、地域の目がかわり非行防止につながる(太田委員)
- ・答えを導くための方法を覚えるのではなく課題解決の考え方を学ぶような教育の視点も必要(比山委員)
- ・総合療育センターにおいて統計的な判断による診察だけでなくきめ細やかな診察が必要(比山委員)
- ・留学生寮にある程度の日本人の学生(ボランティアで日本語を教える学生など)を入れてもらうと助かる(吉塚委員)
- ・地域企業と大学の先生との研究のミスマッチの解消(吉塚委員)
- ・大学が連携しあい横のパイプを活かしながら全学、全市的に企業との産学連携を図っていく必要がある(近藤委員長)
- ・自治会と女性のネットワーク(女性リーダーの集まりなど)が一緒にまちづくりを行える仕組みづくりを(太田委員)

### II きずなを結ぶ

- ・地域活動に若い世代の人材の活用を(成田委員)
- ・ゲリラ豪雨についてしっかりと対策をとるべき(成田委員)
- ・災害に対する各行政機関、地域住民、消防団などの連携をより一層強くする必要がある(成田委員)
- ・予め想定される災害等に対して、予想される被害について市民に情報提供することが重要(岡田委員)
- ・色々な情報がリンクできるようになり、ひとりひとりに届くような方法をマルチで考えていくべき(近藤委員長)
- ・民生委員に対する行政としてのフォローを手厚く(比山委員)
- ・出生のときに半強制的に町内会に入れさせることはできないのか(細川委員)
- ・犯罪を犯した人の自立支援に対する行政のさらなる協力(住居支援や雇用支援)が必要(細川委員)
- ・自治会、町内会、社会福祉協議会、まちづくり協議会等の役割があいまい(比山委員)
- ・若い世代に自治会等の(社会的)役割等を理解してもらえるような努力も必要(比山委員)
- ・生まれてから亡くなるまで、その地域のなかで自分の存在をつなげておく何かの仕組みづくり(伊藤委員)
- ・若い世代が自分たちも社会の役に立つことができるんだという意識を植え付ける仕組みづくり(伊藤委員)
- ・市民後見人の育成、児童虐待等の早期発見対策は急務(近藤委員長)